

「気持ちを歌で伝えよう ～スマホを使って1コーラス作りにチャレンジ～」
レポート（第2回目）

開催日：2022年9月25日 @アクトシティ浜松コンgresセンター

全6回のワークショップを通して、スマホを使った1コーラスの歌と曲作りにチャレンジするワークショップの第2回目を開催しました。

講師のJam9のGiz'Moさん（先生とは呼ばないで！）は、2010年にメジャーデビューしたJam9のメンバーとして、ラップ担当をしています。また、E-girlsなど多くのアーティストに楽曲提供も行っています。

第2回目は、気持ちを歌詞にする作詞心得、歌詞に曲をつける作曲心得を学びました。

参加者からの自己紹介の後、Giz'Moさんから参加者の皆さんに自身が現在の活動に至るまでのストーリーを紹介されました。最初に習っていたピアノはあまり乗り気でなかったエピソードも聞くことができました。音楽に携わる現在の姿との違いに、参加者からは驚きの声も上がっていました。

ワークショップが始まる前、休憩中には、Giz'Moさんが作曲する様子を見せてくれました。



さっそく始まった作詞のポイント。作詞には正解はないけど、誰に対して届けたいのか（ターゲット）を意識するのが大事になるとのこと。過去に韓国の音楽グループ TWICE の歌詞の和訳に挑戦した時の話も出てきました。

また、「歌詞は分かりやすくないとダメだ」と過去に言われた経験もあるそうですが、最近の歌詞は目的語がない曲もあり、時代によっても正解は変わってくると実感されているそうです。

その他にも、

K-POP が流行り、歌詞がメロディに上手く合っていない（ハマりが悪い）ことが、受け入れられるようになった。

単純に一音ずつ歌うのではなく、話すように歌う歌い方（スポークンメロディ）。
似ているメロディに、似ている発音の言葉を合わせる（五感を合わせる）。
歌詞の語尾の韻を踏んで合わせるのが、最近の流行り。
といった時代とともに変化する楽曲の特徴についても話がありました。
また、Giz'Moさんが衝撃を受けた曲、歌詞を解説付きで紹介してくれました。

どうすれば作った曲を聞いてもらえるかを考えて、プロのミュージシャンは思考錯誤しているようです(>_<)

しかし、今回のワークショップでは売れる曲ではなく、好きな曲や作りたい曲を作っていくことから始めていくことになりました。これで参加者の皆さんも取り組みやすくなりそうです。



では、どうすれば歌詞が作れるのか？Giz'Moさんからは、まず、今自分が好きな曲を歌詞とにらめっこする位じっくり聞いてみましょう、誰かの言葉や、きれいな言葉、ありきたりなテーマを使うより、今の自分が感じる、今の自分にしか書けないものを歌詞にしてほしいとアドバイスがありました。

最後にまとめとして、3つのポイントを教えてもらいました。

- ①メロディの起伏と発音の起伏を合わせる。
- ②先にタイトルを決めてから歌詞を書いていく。
- ③正解はないから恐れずにやってほしい。

第1回目に中森先生から出された宿題に取り組む際の参考となりそうです♪次回、参加者の皆さんがどのような歌詞を作ってくるのでしょうか？(^)/